



**志田 祐一郎 建設部門（建設環境）／環境部門（自然環境保全）**

**勤務先：株式会社野生生物総合研究所**

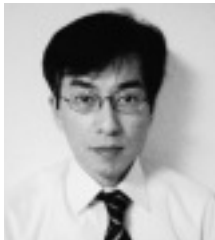
生物を対象とした仕事を始めていつの間にか13年たちました。それでも生物についてわからないことが相変わらず山積みです。

我々人間は生物の命を奪いながら様々な形で利用する一方、生物が存在することにより少なからざる恩恵を受けています。言い換えれば生物は、その種類によってあるいは我々の生活の場面によって、利用すべき対象にもなり保護すべき対象にもなるわけです。私の携わってきた業務の多くには、「ある場面においてある生物をどのように扱っていけばよいのか」という問いが内包されていました。人間の自然との関わり方が課題となっている現在、この問いに対する答えはますます求められることでしょう。これに対し的確な回答を出すのは必ずしも容易ではないわけですが、我々人間のよりよい生活と生物自体の価値を考慮しつつ、問題解決に寄与したいと考えています。

こんなことを考えつつ、家では野菜や山野草を育てて楽しんでいます。といっても根っからの無精者なので、もっぱら狭い庭に露地植えて、雑草は生え放題、害虫はつき放題です（これで育てているといえるのか？）。このような中でも生き抜いている植物を見ては頼もしさを感じ、また消えていく植物を見ては自分の無力（不精？）を嘆いたりしています。一方工夫の余地が大きいと感じているのが土です。日照条件は今以上に良くはならないので、今年こそ少しはいい土ができるように試行錯誤してみようと思っています。どなたか土作りを得意とされている方がいらっしゃいましたらご教示くださいませか？



次号は、福間博史さん（建設／環境部門）



**佐野 隆史 農業部門（農業土木）**

**勤務先：株式会社フロンティア技研**

まずは、私の略歴を紹介させていただきます。1962年（昭和37年）奈井江町に生まれ、高校卒業まで中空知の田園地帯で、大学時代はタマネギの町北見で過ごしました。1985年（昭和60年）に北海道農業土木コンサルタント(株)に入社、平成元年に株式会社フロンティア技研に移り現在に至ります。我が社は、農業土木に係わる計画設計を主な職種としていますが、セールスポイントは水理模型実験施設を所有している点で、ダムや頭首工、パイプライン、排水路などの実験業務で多くの実績があります。

自身の話に戻ります。これまでに約20年農業土木に従事してきましたが、初めの10数年は主に農業用ダムの設計に携わりました。最近では開水路・管水路の設計、農業用水利施設の機能診断と予防保全対策などが主な業務内容となっています。設計に際して、管理者や使用者などから改修に向けての要望などを聞き取る機会が多くあり、農業を取り巻く情勢の厳しさを改めて痛感している次第です。取り分け大きな問題と感じているのは後継者不在の実態で、主たる農業従事者の高齢化とこれに伴う施設管理における負担軽減の要望が多く聞かれます。このような要望に“少しでも答えていける技術の習得や研鑽が技術者の使命”との認識を強くしているところであります。

今後は農業土木に係わる技術者として、時代背景により異なる社会的な要請に的確に対応していくことを目標に日々努力していきたいと思えます。



次号は、林 和虎さん（建設部門）